



玉城デニー氏圧勝

沖縄県知事選

辺野古新基地NO!は民意



玉城デニー 396,632
佐喜真淳 316,458

沖縄県知事選挙はオール沖縄の皆さんが推した玉城デニー氏が圧勝しました。

例によって相手側の佐喜眞候補は辺野古問題を徹底的に避けて、経済発展に絞った「勝利の方程式」を追求しましたが玉城氏は佐喜眞氏を8万票以上離してしっかり翁長さんを引き継ぎ圧勝しました。

佐喜眞氏側も政府与党勢力挙げて自民・公明・維新の幹部が総力を挙げましたが敗北。安倍総裁継続を決めた直後だけに、そのショックは大です。

無党派層の7割が玉城氏を選んだというように翁長さんの確立した路線はしっかり県民の支持に支えられています。

選挙の結果について安倍首相は「結果は真摯に受け止める」と口先ではいうものの、続けて「新基地建設の方針に変わりはない」と直ちに言い切るとい言葉の「軽さ」は安倍内閣特有です。

沖縄県は埋め立ての許可を取り消したため、現在中断しています。(それでも現場は防衛省が囲いを作り警察が立ち入りを禁止しています。違法工事を警察が警備する根拠はありません)今後政府側は県を訴えるというので、法廷闘争になる見込みです。しかしいかなることになろうと基地は作らせないと、強い民意が示され、知事も断固たる決意を示しています。

沖縄県民は平和を守る強い意志とともに、地方自治の大切さを日本国民全員に訴えかけています。

沖縄のことは沖縄県民ウチナンチュの意思が最



大限に尊重されなければならないという当たり前の、憲法にも謳われている民主主義の基本です。

しかし地元宜野湾市では市長であった佐喜眞氏が知事選に出るために辞任し、後継を託した松川氏が仲西氏を破って当選しているだけに、県民、市民の複雑な気持ちが分かります。

市民の安全に責任持てる？

東海第二原発再開反対の意見書不採択

「原発なくそう：流山の会」代表の辻野吉勝さんが213名の賛同署名とともに「再開をやめるよう意見書を出してほしい」との陳情書を提出。「原発止めよう！

東葛の会」代表の日下部信雄さんもほぼ同趣旨の請願書を提出し、9月12日10時から市民経済委員会で両請願が審議され、辻野さんと日下部さんが意見陳述しました。森議員から質問があったほかは反対意見もなく、植田議員が賛成意見を述べ、評決をしたところ1：5で否決されました。市議会最終日の10月2日本会議での審議では日本共産党(乾、小田桐、徳増、植田)、社民党(阿部)と菅野議員の賛成で6：20で不採択とされました。予想されたこととはいえ残念です、

原子力規制委員会はこれまでもいくつもの原発を強引に合格としたもののこれを「安全宣言ではない」と言っています。

自動車運転免許に合格したことは事故を起こさない保証でしょうか。そんなことを信じる人はいないはず。

再稼働許可をしたものの再開するためには周辺自治体の避難計画が必要ですが、その見通しは立っていません。その中で自治体の賛成という条件を整えるために当流山市も水戸市からの避難民6000人の受け入れを承知するというのは再開のための条件整備に加担することであって「災害時にはお互いに助け合おう」という人道的な話とは違うのではないのでしょうか。

今夏は歴史的な酷暑でした。原発のほとんどが停止している中、真夏日の中でも電力不足はおこりませんでした。福島汚染水の処理済みのはずが、その8割が不十分だという信じられないことが起こっています。流山市は国の情報や国の施策に追従するだけでは市民の命や健康を責任もって守れないではありませんか。

